

教育目標		元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもを育成する ○心も体も元気な子 ○自分をいきいきと表現する子 ○互いを認め合い思いやる子 ○仲間とともに育つ子						
保育の視点		子どもたちの伝え合う姿を育む保育に取り組む						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と※課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程・研究推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの伝え合う力を育む保育の実践</li> <li>職員の連携を意識した保育の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの姿に焦点を当てた事例を出し合い、学びを深めていく。</li> <li>園内研究会を行い、互いの保育や環境構成を見合い教師の保育スキルの向上に努める。</li> <li>週案の中に子どもの伝え合う姿を記録し実態把握に努め、クラス経営を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回以上の事例の研究を行い保育を見直す。</li> <li>学期に1回以上の園内研究会の実施。</li> <li>共同研究園の研修に、担任が1人1回以上参加する。</li> <li>子ども達の伝え合いにつながる保育の環境整備</li> <li>子どもの伝え合う姿につながるよう、職員で共通理解する場を確保する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会に向けて、職員の意識向上、連携が高まった。</li> <li>定期的に事例や保育室環境を見合うことで、子ども理解と自園の研究テーマに迫っていくことができた。</li> <li>共同研究園の研修に積極的に参加することで、保育の広がりにつながった。</li> <li>※引き続き、積極的に学ぶ姿勢をもち取り組んでいく。</li> <li>※保護者啓発に努めることで、幼稚園と家庭が連携し子どもを育てていく体制作りにつながる。</li> <li>※週案や教育課程を見直し、教師の学びたい内容を取り入れ整理していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育参観やクラスだより、家庭に持ち帰ることのできる教材等を利用した啓発</li> <li>市内研究発表会から見られた課題と成果を教育課程に取り入れる。</li> <li>年間カリキュラムに、研修の日程を入れる。</li> <li>子どもの実態、時期を捉えた計画的な保育の展開</li> </ul>	
	豊かな心・健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育</li> <li>人権教育</li> <li>特別支援教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「にこにこカード」を教材とし親子で「げんきカレンダー」に挑戦する。</li> <li>伝え合う力や、生活習慣の見直し、意識の向上につながるよう、保健室の環境整備や保育内容を工夫する。</li> <li>担任同士が連携し、子どもの実態に合わせた運動遊びや戸外遊びの内容を考慮し設定する。</li> <li>飼育、栽培の機会を多くもち、収穫の喜びや命の尊さ等を共有していく。</li> <li>子ども同士のつながりや伝え合う姿につながるよう支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くの「げんきカレンダー」を回収し、成果と課題を明確にする。</li> <li>にこにこカードの内容や感染症予防の啓発について、当番活動や保健の話として保育に取り入れる。</li> <li>教師間で、戸外遊びでのねらい、子どもの実態、遊びの内容の共通理解をする。</li> <li>1つのテーマに基づいた運動遊びなど、子どもがよりすすんで体を動かすことができる保育を展開する。また、冬にはマラソンを行い体力向上に努める。</li> <li>自分達で育てた野菜をみんなで食し、おいしさや喜びを共有する場の確保</li> <li>職員が連携し、子どもの実態把握や具体的な支援方法を出し合い実践する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子で「げんきカレンダー」に取り組んだことで、その成果や課題をより保護者と共有することができた。</li> <li>げんきカレンダーの回収率が100パーセント達成。</li> <li>子どもや保護者の目につきやすい場所に掲示をし意識の向上に努めた。「にこにこカード」を活用したことで、子どものルールや生活習慣の共通理解がしやすかった。</li> <li>職員が連携し、子どもの実態把握、そこから具体的な保育を出し合い実践することができた。(戸外遊びや運動会の取り組みなど) ※子どもの実態に合わせて定期的に「保健の話」を行っていく必要がある。</li> <li>自分達で育てた野菜をみんなで食べたことで、苦手だった子も挑戦しようとする姿につながった。</li> <li>※学級懇談やクラス活動を通して、人権について考える場をもったが、保護者啓発について今後も絵本やクラスだよりを通して引き続き行う必要がある。</li> <li>職員同士で子どもの姿の共有したり、具体的な支援方法について考える時間を多くもつことができた。</li> <li>小さな広場を積極的に行うことができた。</li> <li>様々な講演会の案内や他機関との連携につながる啓発に努めた。</li> <li>担当者の動きを個々の状態に合わせ、臨機応変な支援体制づくりに取り組んだ。</li> <li>連絡帳や登降園時を利用し、担当者や保護者で子どもの姿を共有する場の確保に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と養護教諭がより密に連絡を取り合い、子どもの姿に合わせた取り組みを増やしていく。「保健の話」を定期的に取り入れていく。</li> <li>園として子どもの課題を共通理解して保育を計画し、子どもの発達に合わせた運動面での育ちを支えていく必要がある。</li> <li>学級懇談会やクラスだより、保護者に向けた講演会等を通して人権に触れる機会を増やし、保護者啓発に努める。</li> <li>職員が受けた研修内容を保護者に返す場をつくっていく。</li> <li>引き続き、子どもの実態と課題に合わせた支援を行っていく。</li> <li>個々の子どもの様子や成長を、担当者や担任だけでなく組織として見ていく体制を今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが一緒に活動し、直接的に交流する場をもつことで、小学校への接続、教師間の連携につながる。</li> <li>特別支援教育についての講演を保護者に向けても積極的に取り入れると、子どもへのかかわり方を情報として知ることができるのではないか。</li> <li>こまめな掃除、それを癖づけていくことで一日を気持ち良く過ごすことができる。引き続き取り組んでほしい。</li> <li>教師の細やかな環境設定は、保護者にとってもコミュニケーションのきっかけになる。(保護者向け絵本貸出)</li> </ul>
開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域とのかかわりを深め、保護者、幼稚園、第3者が一緒に子どもの成長を見守っていく体制を整える。</li> <li>参観日に合わせ、「伝え合う力」の取り組みを園長、養護事務からの話をする場をもつ。また、講師の先生に来ていただき専門的な立場での講演会を行う。</li> <li>おぎのっ子タイム毎月1回15:00までを取り入れる。</li> <li>HPや園長通信を通し保育の様子を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区社協行事には、毎回職員1名以上が参加する。</li> <li>参観日毎にパワーポイントを使い、園での取り組みや子どもの姿を伝える。</li> <li>伝え合う力について、家庭教育講演会を行う。</li> <li>保護者向けに絵本の読み聞かせを行い、また子どもと共に親子で絵本を読む時間を取り入れる。</li> <li>HPは月1回以上の更新をする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の地区社協行事への参加に努めた。</li> <li>未就園児サークルで、未就園児が全体での活動や園行事に参加することができるよう場をもった。</li> <li>保育所や小学校と連携し、交流する機会を設け活動することができた。</li> <li>※互いに指導内容や子どもの実態を理解した上で交流できるよう引き続き小学校とより連携していく。</li> <li>保護者が積極的に絵本を借りる姿が増えた。親子の読み聞かせの時間をもつことで、親子のコミュニケーションのきっかけにもなった。</li> <li>教師間で役割分担をし情報を発信していくことで、定期的な情報公開を継続することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域とのつながりを大切にしながら取り組んでいく。</li> <li>小学校との連携をより密にし、計画的に取り組む。一緒に活動できる場があると、より子どもにとって良い刺激になるのではないかと。</li> <li>家庭教育講演会の内容の計画、工夫を行う。</li> <li>おぎのっ子タイムについて、年度始めに計画し取り組んでいく。小中学校の行事予定なども把握し計画的にすすめる。</li> </ul>		
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検日を年間計画に取り入れ園だよりにも記載し、職員の意識向上に努める。</li> <li>様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を設ける。</li> <li>遊びの後には、子どもと園庭清掃を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の目で日頃から安全点検に努める。遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。</li> <li>2か月に1回以上の避難訓練の実施。</li> <li>子ども自身も意識し、園全体としてきれいな園を保つ。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から気がついた職員が声をかけ、安全管理に努める意識をもって過ごしてきた。</li> <li>倉庫の整理を行ったことで、安全で使いやすい環境を改めて考え場を整えることができた。</li> <li>不審者対応訓練を確実に実施する</li> <li>園の警備体制や安全管理についての再確認</li> <li>子どもが自らすすんでごみや石等を拾い、危険箇所を見つけた時にはすぐに大人に知らせることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月当番が安全点検の日呼びかけるなど、引き続き意識向上に努めていく。</li> <li>全職員が意識をもち、定期的に行っていく。</li> <li>※定期的な訓練の中に、不審者対応訓練を取り入れ確実にやっていく必要がある。</li> <li>※門の施錠など園の安全管理について体制を再度確認する。</li> </ul>	